

E-6 子供の成長における texture と色・形把握との関連 — その2 —

大阪市立大 ○北浦かほる 浅野信子 松岡貴世子

1. 前研究^{*}において、具体的 texture の実験結果と、従来の色・形把握に関する研究資料を比較検討し、それらの間の関連を解明した。ここでは、その結果をさらに実証し、傾向を詳細に分析するために、色・形 texture の3つの要素を同時に扱った実験を計画した。
2. 実験の概要 被験者はM保育園及び乳児センターの2~5才までの^{20児}の各年令毎20名、計80名である。実験は、色・形 texture の夫々の要素を2つずつとりあげ、これらのすべての組合せを考えて、各要素をもつものと同じものはとれか、という風に問うた。但し、色は予備実験により、代表的な6色相の中で、最も子供の目につきやすいのが黄であることとれか、たので、黄及びその補色を用いた。形は円と正方形、texture は粗面と滑面の2種を選んだ。
3. 実験結果 年令別にみると、5才ではほぼ4分の3が形を選択の指標にしており、次いで色 texture である。4才も同じ傾向だが、3才ではその逆転し、色を中心に物を探している。2才では、又形中心になり、色 texture と探ると、その差は小さく成っている。高年令程個人別選択の指標は一定のものになるが、年々になる程、走った指標をもたず、1才毎に一番よくめだつもの^Vが選ばれる。texture に対する傾向は他の2つより、低い。5才児では、個人別^{選択の指標に}選択傾向があらわれており、理解度はかなり深々とみられる。texture と他の要素との結びつきについては、texture の粗いものと色の関連、texture の細いものと形との関連の、全体を通じて、強くみうけられた。 *S47.5. 関西婦科雑誌 - 201 -